

安全データシート (SDS)

1. 製品及び会社情報

製品名	： マノール 水溶性万能剥離剤
会社名	： 株式会社 マノール
住 所	： 東京都足立区宮城 2-4-1 6
電話番号	： 03 (3927) 1331
FAX番号	： 03 (3927) 1334
緊急連絡先	： 024 (591) 1131
作 成	： 2016年1月29日
改 訂	： 2016年8月17日

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	火薬類	対象外
	可燃性／引火性ガス	対象外
	可燃性／引火性エアゾール	対象外
	支燃性／酸化性ガス	対象外
	高压ガス	対象外
	引火性液体	区分3
	可燃性固体	対象外
	自己反応性化学品	対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	対象外
	自己発熱性化学品	対象外
	水反応可燃性化学品	対象外
	酸化性液体	区分外
	酸化性固体	対象外
	有機過酸化物	対象外
	金属腐食性物質	対象外
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	区分4
	皮膚腐食性／刺激性	区分2

環境に対する有害性	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2 B
	呼吸器または皮膚感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分 2
	生殖毒性	分類できない
	標的臓器／全身毒性（単回ばく露）	区分 3
	標的臓器／全身毒性（反復ばく露）	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	区分 1
	水生環境有害性（急性）	分類できない
	水生環境有害性（慢性）	分類できない
ラベル要素		
絵表示またはシンボル		
注意喚起語	危険	
危険有害性情報	引火性液体及び蒸気	
	吸入すると有害	
	皮膚刺激	
	眼刺激	
	発がんのおそれの疑い	
	呼吸器への刺激のおそれ	
	眠気又はめまいのおそれ	
	飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ	
	全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。	
	使用前に取扱説明書を入手すること。	
	熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。	
	防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。	
注意書き 安全対策	静電気放電や火花による引火を防止すること。	
	保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。	
	呼吸用保護具を着用すること。	
	ホース等を使用して口で吸い上げないこと。	
	屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。	
	ミスト、蒸気を吸入しないこと。	
	取扱い後はよく手を洗うこと。	
	環境への放出を避けること。	

緊急措置	火災の場合には適切な消火方法をとること。 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。 衣類にかかった場合、直ちに、全ての汚染された衣類を脱ぎ、取り除くこと。 飲み込んだ場合、吐かせないこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断／手当てを受けること。 ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
保 管	直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。 容器を密閉し、一定の場所を定め施錠して保管すること。
廃 棄	内容物をおよび容器を廃棄する場合は、都道府県知事の許可を受けた廃棄物処理業者に廃棄を委託すること。

3. 組成、成分情報

単一成分・混合物の区別	混合物
化学名又は一般名	コンクリート用剥離剤
化学特性（化学式又は構造式）	特定できない
成分	鉱油 脂肪酸
官報公示整理番号（化審法・安衛法）	該当しない。
CAS No.	該当しない
UN No.	該当しない
危険有害成分	
労働安全衛生法 第57条の2	通知対象物質：鉱油96%以上質量%
毒物劇物取締法	対象物質ではない

4. 応急処置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は医師の診断、手当てを受けること。

呼吸が停止している場合及び呼吸が弱い場合は、呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行う。直ちに汚染された衣服を脱ぎ、皮膚又は髪を大量の水で洗うこと。皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断、手当てを受ける。汚染された衣服を再利用する場合には、十分に洗濯し汚染を除去する。

皮膚に付着した場合

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。直ちに医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合

無理に吐かせないで、直ちに医師の手当てを受ける。水で口の中を十分に洗うこと。吐き出せると肺に吸引などの危険性が増すことがある。

応急措置をする者の保護

救助者は保護手袋／保護眼鏡／保護マスクを着用すること。

5. 火災時の措置

製品自体は不燃性である。

消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、泡消火剤、散水、水噴霧

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

高温の金属表面等への接触や、燃料管から漏洩した場合、発生した蒸気によって燃焼や爆発が起きる可能性がある。燃焼の際は、煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

特有の消火方法

火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。周囲の設備等に散水して冷却する。火災発生場所の周辺には関係者以外の立ち入りを禁止する。

消火を行う者の保護

状況に応じて適切な保護具を着用し、当該物の吸入や直接接触を避ける。風上から消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具
及び緊急時措置

風下の人を退避させる。漏洩した場所の周辺にはロープを張るなどして、人の立ち入りを禁止する。作業の際には消火用保護具を着用する。漏出物が河川等、公共水域に流されないように留意する。海上の場合はオイルフェンスを展開して、拡散を防止し、吸着マット等で吸い取る。薬剤を用いる場合は、運輸省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

環境に対する注意事項

少量の場合：漏洩した液は土砂などに吸着させて密閉できる容器に回収する。

回収、中和

大量の場合：漏洩した液は土砂などで流れを止め安全な場所に導いて、出来るだけ容器に回収する。蒸発しやすいので速やかに全ての着火源を取り除き漏洩箇所の漏れを止める。

二次災害の防止策

付近の着火源となるものを速やかに取り除くと共に消火剤を準備する。漏洩時は事故の未然防止及び拡大防止を図る目的で、速やかに関係機関に通報する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

指定数量以上の量を取扱う場合には、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。

皮膚への接触、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。

熱、火花、裸火、高温物のような着火源から遠ざける。－禁煙

注意事項	法に則した防爆型の電気機器、換気装置、照明機器、その他機器を使用する。
保管	室内で取扱う場合は十分な換気を行う。 換気装置をつける場合は、防爆型を用いる。 直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。 容器を密閉し、保管場所に施錠すること。 危険物の表示をして保管すること。
適切な技術的対策	保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地すること。 火気厳禁。 ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸性物質との接触並びに同一場所での保管を避けること。
安全な容器包装材料	容器に圧力をかけない、破裂する恐れがある。 耐火性容器を使用する。 容器は、溶接、加熱、穴あけ又は切断しないこと。残留物が発火することがある。
8. ばく露防止及び保護措置	
管理濃度	設定されていない。
許容濃度	日本産業衛生学会（2006 年版） $3\text{mg}/\text{m}^3$ （鉱油ミスト） A C G I H（2004 年度版）（Kerosine/Jet Fuels.as total hydrocarbon vapour） 時間加重平均（TWA）値 $5\text{mg}/\text{m}^3$ （鉱油ミストとして）
設備対策	屋内作業での使用の場合は発生源の密閉化、又は局所排気装置を設置するのが望ましい。 取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	保護マスクを着用する。
手の保護具	耐油性保護手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡または安全ゴーグルを着用する。

皮膚及び身体の保護具
適切な衛生対策

状況に応じて保護衣等を使用する。
現在のところ有用な情報なし。

9. 物理的及び化学的性質

形状	液体
色	無色または淡黄色
臭い	微鉍油臭
沸点	データなし
融点／凝固点	データなし
引火点	152 ± 10℃以上
発火点（自然発火温度）	データなし
分解温度	データなし
蒸気密度（空気＝1）	データなし
密度	0.850 g/cm ³ （15℃）
溶解度	水に難溶。
オクタノール／水分配係数	データなし

10. 安定性及び反応性

安定性	通常の手扱い条件では安定。
危険有害反応可能性	強酸化剤との接触は避ける。
避けるべき条件	高温、火災、スパーク及び着火源との接触は避ける。
混触危険物質	ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触は避ける。
危険有害な分解生成物	燃焼の際は煙、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。

11. 有害性情報

急性毒性	データなし
皮膚腐食性／刺激性	刺激性あり
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	刺激性あり
呼吸器感作性	データなし
皮膚感作性	データなし
生殖細胞変異原性	データなし
発がん性	IARC では fuel oils がグループ3に分類されている。 ACGIH（2001）の提案もほぼ同様である。

生殖毒性	有用な情報なし
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）	ヒト暴露例で中枢神経抑制やめまいなどが認められた。（keroseneDATA）
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）	データなし。
吸引性呼吸器有害性	ヒトで誤嚥により化学性肺炎を起こす。（keroseneDATA）

1 2．環境有害性情報

生態毒性	有用な情報なし。
残留性・分解性	有用な情報なし。
生体蓄積性	有用な情報なし。
土壌中の移動性	有用な情報なし。
漏洩、廃棄などの際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取り扱いに注意する。	

1 3．廃棄上の注意

- ・事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。
- ・投棄禁止。
- ・埋め立て処分を行う場合には、あらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃え殻については、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。
- ・燃焼する場合は、安全な場所で、且つ、燃焼又は爆発によって他に危害又は損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。

1 4．輸送上の注意

国際規則

国連番号：	・ 1 2 2 3
品名：	・ ケロシン
国連分類：	・ クラス 3（引火性液体）
容器等級：	・ III
海洋汚染物質：	・ 規制の対象である。

国内規則

- ・ 下記、輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。
- ・ 消防法 危険物 第 4 類第 3 石油類 非水溶性 危険等級 III

	・労働安全衛生法 危険物（引火性の物）、表示対象物、通知対象物
海上	・船舶安全法 船舶による危険物の運送基準等を定める告示 引火性液体類
航空	・航空法 航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示 引火性液体

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・運搬容器及び包装の外部に、品名、数量、危険等級及び「火気厳禁」の表示をする。
- ・指定数量以上を車両で運搬する場合は、「危」の標識を車両前後に表示し、消火設備を備える。
- ・陸上輸送の場合、運搬時の積み重ねは3 m以下とする。
- ・第1類及び第6類の危険物との混載を禁止する。
- ・輸送用容器は、危険物の規制に関する別表第3の2項に定めたものを使用する。
- ・その他関係法令の定めたところに従う。

15. 適用法令

消防法	危険物 第4類第3石油類 危険等級Ⅲ
労働安全衛生法	危険物（引火性の物）、表示対象物、通知対象物
船舶安全法	船舶による危険物の運送基準等を定める告示 引火性液体類
航空法	航空機による爆発物等の輸送基準等を定める告示 引火性液体類
海洋汚染防止法	油分排出規制
港則法	引火性液体類
道路運送車両	危険物、爆発性液体
下水道法	鉱油類排出規制
水質汚濁防止法	油分排出規則
廃棄物の処理及び清掃に関する法律：産業廃棄物規則	

16. その他の情報

参考資料・引用文献など

- ① 許容濃度等の勧告、日本産業衛生学会（2006）
- ② 米国産業衛生専門家会議（ACGIH）” TLVs and BEIs(2009)
- ③ IARC Monographs on the evaluation of carcinogenic risks to humans. Vol. 45(1989)

- ④ IUCLID(2000)
- ⑤ 米国産業衛生専門家会議：ACGIH documentation, 7th (2001)
- ⑥ 環境保護クライテリア EHC 20(1982)
- ⑦ NTP TR310 (1986)
- ⑧ PATTY 4th (1994)

責任の限定について

記載内容のうち、含有量、物理化学的性質の値は保証値ではありません。本記載内容は、現時点で入手できる資料、情報データに基づいて作成しており、新しい知見によって改訂される事があります。また、注意事項は通常の手扱いを対象としたものであって、特殊な手扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。